

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		通常砂防事業		路河川名等	(砂)田代沢			
事業毎の通番		6	市町村名	上松町	箇所名(ふりがな)	寝覚(ねざめ)		
事業概要	事業目的	本溪流は上松町の中央部に位置し、地質は花崗岩から成る流域面積0.07km ² の土石流危険渓流Ⅰである。被害想定区域には保全対象として人家49戸、上松町地域防災計画において避難所、ヘリポート位置付けられている上松中学校がある。流域は河床勾配が約13度と急峻であり、斜面には不安定な転石や堆積土砂が多く存在しており、下流に流出する恐れがあるため、砂防堰堤を整備することにより、土砂災害を未然に防止するものである。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法			
	関連する事業、計画等	なし						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家 50戸(うち特別警戒区域内5戸)、上松中学校(避難所:収容100人、臨時ヘリポート) 1棟、町道 1290m						
	着手年度	平成30年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成34年度	費用対効果	17.5		国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			300,000	150,000		135,000 15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家50戸、上松中学校(防災計画に位置づけられた避難所)、町道を保全する						
	間接的効果(定量的・定性的)	避難所を保全することで、住民の安全を確保する 土砂災害特別警戒区域の指定が解除される。						
評価の視点	必要性	【保全対象】人家戸数:50戸					評価	
		【保全対象】公共施設数:1箇所(上松中学校) 【保全対象】要配慮者利用施設の有無:無し 【避難場所】避難場所、避難路の有無:有り(上松中学校(避難所))						
	重要性	【災害履歴】過去の災害履歴:無し					評価	
		【交通影響】交通遮断による地域経済への影響:影響度 大(主要町道、要配慮者利用施設アクセス) 【位置付け】地域防災計画上の位置づけ:県および町防災計画に位置づけあり(土石流危険渓流Ⅰ)						
	効率性	【費用対効果】費用便益費(B/C):B/C=17.5					評価	
		【早期効果発現】事業期間:H30~H34(5年) 【工法等比較検討】工法等の比較検討:比較検討あり(施設配置計画、堰堤形式検討) 【総合調整】流域の総合調整:済み(直轄砂防、保安林なし)						
緊急性	【地形地質】流域の地形、地質:風化花崗岩、節理発達					評価		
	【流域植生】流域の植生:放置林が主体、渓床部倒木あり 【勾配】平均渓床勾配:13° 【土砂整備率】土砂整備率:既存施設なし 【危険区域】土砂災害防止法指定区域:特別警戒区域							
計画熟度	【情報共有】事業情報の共有:寝覚区民全体を対象に説明会開催を周知。H29年12月25日開催					評価		
	【地域要望】地域の取り組み:地元区要望が強く、町からの要望も強い 【地域合意】事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】住民との協働:地元寝覚区民による防災訓練を実施							
所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。				採択状況	総合評価		
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。				○	A		

事業概要説明図表	位置図			
	位置図			
	保全対象			
	上流荒廃状況			
	保全対象			
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本溪流は上松町の中央部に位置し、地質は花崗岩から成る流域面積0.07km ² の土石流危険渓流Ⅰである。河床勾配が約13°と急峻であり、大雨の際には土石流の発生が懸念され、直下の住宅団地を含め人家50戸、上松町地域防災計画において避難所、ヘリポート位置付けられている上松中学校に被害の恐れがある。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本溪流の上流域は節理が発達した花崗岩があり、斜面および渓床部に不安定な岩塊や土砂が見られる。扇頂部のレッドゾーンに住宅地が形成され、下流域には、避難所となる中学校があることから、地元要望も強く、上松町からも事業化に向けて強い要望がある。		
③事業説明等の経緯	寝覚区民を対象に事業説明会を開催し、事業実施について了解を得るとともに、事業推進の要望を受ける。(平成29年12月25日開催)			
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	流域内に保安林なし、直轄砂防とは調整済み。 本溪流の谷出口部の両岸斜面は、急傾斜地となっており、斜面下に住宅地が広がっているため、土石流対策に合せ急傾斜地崩壊対策についても地元要望が強い。事業調整を進め、効果的な防災対策の実現を目指す。			
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	住宅地に隣接することから、施工時を含め周辺環境への影響を極力抑えることを念頭におき、設計を進める予定			
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により避難所(中学校)の安全性が向上することにより、地域住民の安全・安心が確保され地域の活性化も期待される。			
⑦その他	なし	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 41' 47" 東経:E 35° 46' 36"	